

飛瀬 稔 議員



文化力豊かな農村環境の育成と、未来を見据えた南阿蘇の村づくり

Q 以前から文化力豊かな農村、いやしの里づくりの必要性を述べてきた。この、いやしの里に観光客の参入を図りカントリービジネスの拠点として発展させる為、又若者の流出を防ぎ移住を促進する為にも起業に必要なパソコン機能の周辺整備、光ファイバーやADSLの充実、受発信の高速化が求められているが現実は？

A 企画課長 情報の高速化というADSLの整備予算を計上している。現在すでにその整備に着手しており、12月中には整備が完成し、情報機能が充実することになっている。

それから、光ファイバーについてはまだ充実ができておらず、今後の課題となっている。

役場の機構改革・組織の効率化

Q 役場の機構改革、組織の効率化は一向に進展していない。課の削減統合は、一気に隣の高森町の6課2局体制や西原村の5課2局体制の様荒療治は無理としても、大量の課長が退職となる来春は村長がその気になれば4〜5課の減は即可能である。

新庁舎建設は見直し、現庁舎の一つを手直し拡張してでも22名の課長級の過多と、配属される職員の効率化を図らなければ将来が心配である。

A 村長 これについては、昨年7月19日の本村行政改革推進委員会からの答申に盛り込まれており、検討のスピード

を上げて、現在、本年12月の定例議会での条例化をめざし鋭意検討を進めている。

組織の統廃合のメリットは、組織の軽量化、人件費の抑制、機動性の強化などにあると思われる。財政状況の厳しい中、補助金の見直しなど村民へ痛みを伴うものもある。

これまで特別職の報酬引き下げや、管理職手当のカットなど人件費の抑制に取り組んできたが、それにもまして、役場としても課、係の統廃合をし、自ら組織のスリム化を図る必要がある。

本村役場の組織は、現在、局を含み18課で各種業務を執行しており、類似町村等と比較したら少し多い状況にある。

また、各課ヒアリングを行った中で係についても、細かく分かれすぎていて業務間、職員間の横の連絡が充分でないという指摘もある。しかしながら、職員の世代間の均衡をとるためには毎年、若干名の職員雇用は必要である。

これから5年後、10年後を考えると職員数は140名前後となり、現在の課、係の体制を維持することが困難な状況になることを全職員が理解し、これまで以上に業務の効率化に努め村民サービスを挙げていくことが大切である。

次期首長選挙への進退について

Q ここで多くの村民に代り、ズバリお尋ねしたい。今村村長は次期首長選に対する進退の決意はされているのか。出馬とあれば所信の表明、退陣とあらば総括なり、それぞれの理由を聞かせてほしい。

A 村長 あと残任期間が5ヶ月くらいあるが、今の気持ちとしては何とか任期中だけは頑張らなければいけないという気持ちで職責を努めているというようなことであるが、もうしばらく進退については時間をいただきたい。



12月中には村内全域でADSL（情報の高速化）の整備が完了予定